

## 偉電史探訪01

## 関東地方で最初の電気鉄道・大師電気鉄道の物語 川崎大師参拝客のため敷設された京浜急行の原点



「発祥の地」の記念碑は車輪がイメージのデザイン。京急創業70年目の1968（昭和43）年に建立

今週から始まった《偉電史探訪》は、電気につつまれるさまじく「発祥の地」や「画期的な実績が行われた場所」を中心に紹介する、「偉大な電気の歴史（偉電史）」の現場跡・探訪記です。

第1回目の今回は、京都電気鉄道（1895／明治28年開通）、名古屋電気鉄道（1898／明治31年開通）に次いで、日本で3番目（関東地方では第1号）に開通しただけでなく、日本初の標準軌道を採用した鉄道としても知られる電気鉄道《大師電気鉄道》の発祥の地への探訪記です。

大師電気鉄道の当初の営業区間は「六郷橋～大師（営業距離約2km、京急川崎まで延伸されたのは1902／明治35年）」間のみ。川崎大師で縁日や祭礼のある日、年末年始など、参拝客が増える日を限定とする運行が行われていました。

大師電気鉄道は同時に、現在もある京浜急行最古の路線・京急大師線（京急川崎～川崎大師～小島新田など7駅、営業距離約4・5km）の前身です。そんなことから、

「発祥の地」の碑は、京急大師線・川崎大師駅の脇に設置されているのですが、それ以上に大師線こそは京浜急行の最初の営業路線だったということ、つまり京浜急行の発祥につつまれる記念碑としての意味合いが強いようです。

ところで、大師電気鉄道の開業当初の始発駅・六郷橋（その後、廃止）は、京急川崎駅から約1kmも離れた場所に設置されていました。東京方面から川崎大師を参詣する人には非常に不便でしたが、川崎駅と六郷橋駅の間は人力車が運行されました。

実はこの人力車はもともと、川崎駅から川崎大師までの唯一の交通機関でした。車夫たちにとっては生活の糧だったその場所に鉄道ができるのですから、当然、猛烈な反対運動が起きました。

それが川崎駅から離れた六郷橋駅を起点にした最大の理由です。

また、六郷橋には、大師電気鉄道に電気を供給するための川崎発電所もありました。いずれ機会をみて、その発電所跡も訪ねてみたいと思います。（M）